20230401_chatlog

知代 遠近:	おはようございます！今日も、また、令和５年度もどうぞよろしくお願いします！
和美 野口:	おはようございます。本日もよろしくお願いします！
晋一郎 林:	おはようございます！
知代 遠近:	リップクリーム半分😳
Takahiro YASUKAWA:	ゴールデンコンビ🙂！
amano satoshi:	楽しみです。
浩幸 土屋:	期初の挨拶みたいですね！
Hayahiko Okugawa:	おはようございます！よろしくお願いします！
Takahiro YASUKAWA:	おお！
知代 遠近:	楽しみです♪ エイプリル・フールじゃないですよね？
Hayahiko Okugawa:	月2！
知代 遠近:	良かった❣️
寛 堺:	「月２!? 言いましたね」のツッコミ（笑）
RYOTA FUJINO:	年度末に「月２ペースを達成するために4週連続登壇です！」とか言ってたり
amano satoshi:	安斎さんと、石井さんや館野さんとのトークがもっと聞きたいですね。
聖也 高島:	これまでと変わらずかもしれませんが、執筆中の書籍にまつわる「今こんなこと考えてる」を覗ければうれしいです！
RYOTA FUJINO:	たまに企業のゲストの方を呼んでいらっしゃるのでそういう回も増えると楽しそう
Takahiro YASUKAWA:	AIと組織開発‥🙄 難しいかなぁ？
知代 遠近:	ネガティブケイパビリティです。あと、ラジオをぜひ！
寛 堺:	社内コミュニティの耕し方、みたいなのは聴きたいです
Hayahiko Okugawa:	コンテンツと少しズレますが、オフラインイベントあったらいいなーと思ってます！
真哉 高橋:	新しい気付きにつながる新しいネタをドンドン提示して欲しい！
聖也 高島:	>オフラインイベント 同感です！
RYOTA FUJINO:	小田さん×ジェフ千葉
和美 野口:	遠又さんの登場に期待しています！
amano satoshi:	リクルートのカルチャーの探索、続編希望
浩幸 土屋:	野中さんと小田さんでSECIモデルのさらに先とか。
RYOTA FUJINO:	海外の組織開発研究の最新知見が知りたいです！
Hayahiko Okugawa:	パラドックス思考で書ききれなかったディレクターズカット回も希望です！
浩幸 土屋:	！！！
寛 堺:	（東南さん発言が心なしか攻め気味な感じ。「言いましたね？」「きのう握りました」）
東南裕美:	笑笑
寛 堺:	ゴリゴリ100枚のスライド！！
amano satoshi:	伝わってきました（笑）
寛 堺:	後からアーカイブで聴きましたが、めちぇめちゃよかったです。『心理学的経営』、買っちゃいました。
Takahiro YASUKAWA:	初耳！😵
寛 堺:	「私淑」のすばらしさ、ですね
Tomo Inoue:	学習論的経営ってフレーズにわくてかしています
amano satoshi:	経営を通じた知性の発達、自己変容
知代 遠近:	いやぁ、めっちゃおもしろくて夢中になってメモってましたw
Tomo Inoue:	行動主義的な学習観がビジネス現場で根強いのはこれまでの経験からも強く感じます
和美 野口:	土曜の朝から熱量高すぎ笑
東南裕美:	参考）構成主義ってなに？：ファシリテーターの学習観（前編） https://cultibase.jp/articles/11340
知代 遠近:	パイプを加えたおじさん、どこで見た記憶が…がスッキリ♪
masaki nakamura:	ディープラーニングの話？
amano satoshi:	わかりやすい。
寛 堺:	社会構成主義は、最近よく耳にしますね。
Takahiro YASUKAWA:	グラレコ見て思いつきましたが、グラレコ講座もやってほしいなあ‥🙄 既にありましたっけ？
masaki nakamura:	これって組織の中でコミュニケーションを通じて空気を読むとか忖度の作法を学ぶっていうこと？
浩幸 土屋:	人は、自分らしさ、新たに何かできることを常に探している　ということですか？
寛 堺:	ウェンガーの『コミュニティ・オブ・プラクティス』(Cultivating Communities of Practice)は、CULTIBASELabにぴったりくる本だと思ってます。
知代 遠近:	ややこしいけど、興味深い！ もっと知りたいです!!
和美 野口:	ドラゴンボールの悟空の成長過程もこれに当てはまりますかね？
amano satoshi:	「ふかぼり」と「ゆさぶり」の背景かな。
寛 堺:	今日のアーカイブ、あらためてじっくり観たい
和美 野口:	いつも以上に「濃い」ですね笑
知代 遠近:	ゆるふわっぽいタイトルなのに、ほんとにゴリマッチョ回だった！
正裕 小井戸:	学習論をベースにするって、働くとか生きることのも学習することだという思想につながる気がします。
masaki nakamura:	コミュニティの価値観みたいなものがキーポイントのような気がする。経験で学ぶって価値観を理解するってことではないか？
Narumasa Suzuki:	Service Dominant Logicとの融合もできそう
Hayahiko Okugawa:	3冊のインパクト
知代 遠近:	おめでとうございます🎉✨
寛 堺:	確かに、無理ゲーだ…

知代 遠近:	年度末の矛盾が吹き出す時期に心の支えになりました。
知代 遠近:	豪華ゲストが気になります❣️
Hayahiko Okugawa:	対談企画気になる！
和美 野口:	しかも2本！
知代 遠近:	みんな同じところを見てるw
浩幸 土屋:	積読中です！
amano satoshi:	対立の炎を、どう統合するかが、トップの仕事だと。
Hayahiko Okugawa:	チームレジリエンス本！
知代 遠近:	えっ？
Hayahiko Okugawa:	おぉぉ！？
寛 堺:	におわせ感がMAX
真哉 高橋:	山田夏子さんのグラファシが感情パラドックスを上手く扱えそうと感じてます
寛 堺:	笑
Hayahiko Okugawa:	頭出しww
知代 遠近:	あぁ〜ん？
RYOTA FUJINO:	ついに！！！！
Hayahiko Okugawa:	ミナベさん！！w
和美 野口:	待望の！
RYOTA FUJINO:	最近、少年漫画の主人公に浮気気味でしたねw
masaki nakamura:	これは期待してところ！
Hayahiko Okugawa:	88888
RYOTA FUJINO:	共著は初めて・・・・？
寛 堺:	どこまで信じていいんだろうか…(笑)
知代 遠近:	堺さん、それ！
和美 野口:	おぉ、水野さん！
Hayahiko Okugawa:	ルール展めちゃ良かったです！
masaki nakamura:	制度設計の本かな__？
和美 野口:	ルール？展は面白かった！
Takahiro YASUKAWA:	なんとー！
寛 堺:	（テンション７掛けで聴くモードに移行中です ＞ 遠近さん）
知代 遠近:	これは…🤔 安斎さんの笑い方がw
浩幸 土屋:	そうは言っても、期待
寛 堺:	・・・とはいえ、本当に出しちゃうんだろうなぁ・・・
Hayahiko Okugawa:	お笑いっぽい振りw
寛 堺:	話し合いの作法か！
和美 野口:	ライバル本w
知代 遠近:	そういう裏話が⁉️
寛 堺:	僕も中原さん本をみて、「あれ？」と思いました
masaki nakamura:	この本読んでるところ
Takahiro YASUKAWA:	早いもの勝ち🙂
Hayahiko Okugawa:	全力で批判したいw
寛 堺:	僕も、中原さんのフィードバック本はちょっとなぁって印象でした。
晋一郎 林:	殴り合いですねw
知代 遠近:	これは実現してほしいw
Hayahiko Okugawa:	カウンターw
Takahiro YASUKAWA:	後出しジャンケン🙂笑
masaki nakamura:	これは今日が何の日なのかを考えるとだな。。
寛 堺:	これはSNSに流せないw
森重 智年:	おもろい。
知代 遠近:	①かなぁ
和美 野口:	テーマ１からガラッと空気が変わりましたね笑
RYOTA FUJINO:	3冊セットで！
寛 堺:	フィードバックの作法を読みたいな〜〜
Narumasa Suzuki:	まとめて鈍器に
Hayahiko Okugawa:	安斎ミナベ本！！
和美 野口:	どれも捨てがたい笑
森重 智年:	全部読みたい
RYOTA FUJINO:	①が読みたい１
masaki nakamura:	②かな。①はやるやる詐欺っぽい。
浩幸 土屋:	ルールのデザイン！
澤田 勝士:	２　ルールで創造性を発揮
和美 野口:	①はデフォルトで
Takahiro YASUKAWA:	全てのハイブリッド
玲子 坂本:	２に１票
聡子 酒井:	全部読みたいけど、現実的なのは1かな。2もきになる！
貴信 貞國:	①に期待

RYOTA FUJINO:	ただ、ミナベさんと共著だと途中で脱線して進まなくなりそう・・・なので現実路線は③？
知代 遠近:	②と③は、イベントでぜひw
裕和 小田:	僕が予想した通りになってる…笑
田沼 友香:	先ほどの前提の話を聞いていると①！！
Hayahiko Okugawa:	小田さんw
寛 堺:	おーーー！！
RYOTA FUJINO:	ｗｗｗ
聡子 酒井:	なんとー！
田沼 友香:	えーーーーーーーーー
知代 遠近:	ですよねw
浩幸 土屋:	２冊！
知代 遠近:	えっ？
Hayahiko Okugawa:	www
寛 堺:	「部長の教科書」にするはずだったのでは！？
知代 遠近:	まさかの😱
寛 堺:	衝動たいせつ！！
晋一郎 林:	組織デザイン方面に衝動がうつった感じですかねぇ。
Hayahiko Okugawa:	あー
裕和 小田:	教科書って切り口が正解っぽいこと書かなきゃいけない感じもありますもんね…
聡子 酒井:	なるほど
晋一郎 林:	ラジオを聴いていたら、なんとなく流れがわかりました。
寛 堺:	そろそろ「教科書」本は食傷気味な感じもあります
masaki nakamura:	組織デザインの教科書にもやるやる詐欺の匂いが
Takahiro YASUKAWA:	確かに難しいテーマだなぁ。。ミドルマネージメントだけにはとどまらないだろうし‥。
Hayahiko Okugawa:	確かにラジオは尻切れ気味でしたね…
澤田 勝士:	衝動ベースでジャッジされるのはハッとしますね。
知代 遠近:	ガチw
寛 堺:	③、めちゃめちゃ読みたいです。
東南裕美:	職場の創造性を高めるルールのデザイン https://cultibase.jp/videos/7669
Hayahiko Okugawa:	出版後は中原先生との対談回が開催されるかな？
Hayahiko Okugawa:	ギャル回！
masaki nakamura:	小田さんの新規事業マネジメントは期待
RYOTA FUJINO:	小田さんのチャレンジャー感w
Takahiro YASUKAWA:	楽しみ〜🙂
和美 野口:	ラー油さんも登場！
晋一郎 林:	『正直さ』って、すごく刺さるワードですね。
Hayahiko Okugawa:	お？執筆！？
裕和 小田:	頑張って、リーンの考え方を超えられる何を書きたいと思います…！
Hayahiko Okugawa:	おぉぉ
浩幸 土屋:	小田さん、期待しています
寛 堺:	ナレッジマネジメント論、組織学習論のテーマ。期待度大です
寛 堺:	コロナ禍があけてリアルの価値が再確認されつつあるいま、企業でも SECIモデル の S（暗黙知⇨暗黙知）が見直される印象があります。
浩幸 土屋:	国内外、組織の差なども聞いてみたいです。丸っと一つではなくて。日本と海外でも違うのかなあと。
amano satoshi:	組織学習に、知の共有は前提としてあって、その先が知りたい。
amano satoshi:	リフレクションが鍵か
浩幸 土屋:	瀧さんのリフレクション本も出版しては如何でしょう
Hayahiko Okugawa:	ミナベさんの本、楽しみだなぁ
晋一郎 林:	組織文化は個人的に最近とても興味のあるテーマです。
知代 遠近:	芸人？ｗ
RYOTA FUJINO:	ルールと文化の関連性は本当に感じますね・・・
知代 遠近:	ナッジ本、多いですね。
和美 野口:	安斎さんも先日「RULE DESGIN」をピックアップされてましたよね。
晋一郎 林:	リモートワークをどう扱っていくかというルールも、今後の組織文化に密接にかかわってきそう。
知代 遠近:	おっと！
知代 遠近:	巨人の肩に乗る
Hayahiko Okugawa:	強めにw
知代 遠近:	強めに？ｗ
寛 堺:	学習文化を醸成する「フィードバック」の方法論、楽しみです。
Takahiro YASUKAWA:	守破離の「離」ですね。
東南裕美:	フィードバックシートこちらです！ https://forms.gle/3RR7zzMeEgrK4vceA
知代 遠近:	今日のサムネ、意味深い。。そういえば桜が咲いたようなバックのグラデーション✨
和美 野口:	純粋に楽しかったです！
寛 堺:	エイプリフフールネタを含め、衝動に溢れた回でした！
真哉 高橋:	組織文化の件凄く興味あります。
RYOTA FUJINO:	このサムネイルはどなたが作ったんだろう・・・？ｗ

知代 遠近:	次回以降のサムネも春らしい✨
裕和 小田:	ギャル回はエイプリルフールではなくガチです笑　ちなみにサムネイルは中園大先生です。
RYOTA FUJINO:	作風の幅！！！
歩 西村:	ギャル回お楽しみに！
知代 遠近:	サムネへの想いを聞いてみたい！
知代 遠近:	おもらしw
和美 野口:	小田さん、西村さん、楽しみにしています！
知代 遠近:	好奇心回、おもしろかったなぁ！
amano satoshi:	とても刺激的でした。
真哉 高橋:	面白かったです！
晋一郎 林:	いやぁ、楽しかったです。ありがとうございました！
真哉 高橋:	ありがとうございました。
知代 遠近:	ありがとうございました！ まんまとだまされましたw
和美 野口:	2023年度もよろしくお願いします！
知代 遠近:	こことここがつながる！って自分で気づくのもうれしいけど、つなぐ回もありがたい…パラドックスw
寛 堺:	ありがとうございました！！
和美 野口:	ありがとうございました！
Yuka Sato:	ありがとうございました！！